瑞穂中学校だより　回覧

【学校教育目標：ふるさとを愛し
心身ともにたくましく　主体的に学ぶ生徒の育成】

令和7年3月18日（火）　NO. 29　文責：校長　柏原　哲郎
HP アドレス　https://www.unzen.ed.jp/mizuhochu

第67回卒業証書授与式

3／11（火）に、本校第67回卒業証書授与式を挙行しました。明け方の雨が別れ涙を思わせる当日でしたが、次第に天気も良くなり、卒業生を送り出すより良い日和になりました。

卒業生入場では、一人ひとりが胸を張り、しっかりとした足取りで入場しました。胸に付けられたコサージュの綺麗な色がまさに卒業生の心持を表しているようでした。

校長式辞では、この3年間ずっと、繰り返し伝えてきた「気合いと愛と夢」について改めて次のような話をしました。

気合いについては、気持ちを合わせるという意味もあるということ、そして合唱コンクールの金賞獲得を例にみんなの気持ちが合い、気持ちが一つになった時の力はすごいものになるということ。合唱コンクールがそのことを知った瞬間であったはずであること。

愛については、愛することは信じること。自分の周りの人を愛し、信じてほしい。何よりも自分自身を愛し、信じてほしい。逆に愛することの反対は無視すること、無関心であるということ。決してみなさんはそんな人にはならないでほしい。

夢については、現在の予測困難で、変化の激しい時代の中においては、夢を見つけ、夢を追い、そして実現することはとても難しい事かもしれない。しかし、逆に予測困難で、変化が激しい時代だからこそ、いろんなことにチャレンジできるチャンスがあると前向きに考えてほしい。何よりも夢を見つけ、夢を追い、その実現を目指そうとするみなさんの姿が、みなさんを一番輝かせる。最後は、「瑞穂中学誇りあり」で結びました。

多くの生徒は校長式辞の内容は忘れることでしょう。しかし、3年間を通して一番伝えたかった「気合いと愛と夢」の思いを、何かの折に思い出してくれる生徒がいるかもしれません。

本年度は来賓に雲仙市長　金澤　秀三郎　様を迎え、卒業生に向けて祝辞をいただきました。その内容の概略を紹介します。

『・・・それぞれの未来に向かって力強く踏み出そうとされている皆さんに、私から伝えたいことがあります。それは、「自立して他者と支え合い、より良く生きてほしい」ということです。・・・自立するということは、自他の良さを認め合うとともに、困難を一人で抱え込まず、他者との支え合いのネットワークを築いていくということです。・・・支え合うということは、時として支える側にもなるということ。支える側になった時に必要な力を磨いておかなければなりません。みなさんに磨いていただきたい力として「言葉の力」と「心の力」の二つをお伝えしたいと思います。・・・私は、言葉を生み出すのは心であり、心を鍛

えるのは言葉であると考えます。・・・（イチロー氏と大谷選手を例として）強靭な肉体と精神力をもつ二人も、言葉と心を大切にしているのです。・・・これからも多くの本を読み、多くの人たちと語らい、変化を恐れず様々なことに挑戦することをとおして、自らの生き方・在り方を問い直していただきたい。そして、自立してより良く生きていくための「言葉の力」と「心の力」を磨いていって欲しいと思います。』

「送る言葉」は、新生徒会長の本田　ゆず花さんがその惜別の思いの中で、何度も3年生の素晴らしさに気付かされたこと。何事にも一生懸命に取り組む3年生の姿が印象的であったこと。特に、今年の体育大会は「3年生がつくりあげた体育大会」のように感じたこと。私たち1、2年生を鼓舞し、盛り上げてくれたこと。また、合唱コンクールには全力を注いでいたこと。合唱コンクール本番の3年生の合唱が楽しみになる一方で、自分たち2年生にも火をつけてくれたこと。本番は見事な合唱であり、見ているこちらまで熱いものが込み上げて、うるうるとしてしまったこと。今年のスローガンである「努力に勝る天才なし」のように3年生は何にでも一生懸命で、その姿が本当にかっこ良かったこと。等々。送る言葉により卒業生の胸も熱くなりました。

「別れの言葉」は、前生徒会長の中峰　紗英さんが「送る言葉」を受けて、その思いを語ってくれました。入学当時のことや友達と遅くまで語り合った修学旅行のこと。クラスの団結力の強まりを感じられたこと。たくさん悩みながらも工夫を凝らした体育大会のこと。未来を歌った曲に、自分たちを重ねて、少し寂しさを感じた合唱コンクールのこと。故郷のために自分たちに出来ることをまとめ、発表したふるさと学習のこと。中総体が近づくにつれて、泣く回数が増えていった部活動のこと。仲間が頑張っている姿を見て、自分も諦めたくないと思えた最後の試合のこと。たくさん悩んだ進路のこと。そして、3年生担当職員をはじめとする我々教職員と家族への感謝の言葉。最後は41名の仲間のこと。「仲間がいることを忘れないでください。」等々。2人が必死で涙を堪えながら思いを伝える言葉が体育館に流れだすと、卒業生、在校生を問わずすすり泣きが聞こえました。そこには感動がありました。また、それぞれの言葉の間には在校生の歌「君は君でいい」、卒業生の歌「絆」の合唱があり、さらに感動が渦巻きました。素晴らしい卒業式となりました。

本年度の卒業式には、金澤市長　様をはじめ、次の方々をご来賓としてお招きしました。

雲仙市議会議員　上田　篤　様、瑞穂総合支所長　菅　康郎　様、育友会会長　室田　正徳　様、雲仙市教育委員会学校教育課　課長　中村　祐典　様、学校評議員　力野　和久　様、宮崎　登喜子　様、松坂　陽子　様、主任児童委員　前田　泰隆　様、林　千代子　様　以上です。

式終了後、来賓の方々から素晴らしい卒業証書授与式であったとお褒めの言葉もいただきました。本当にありがとうございました。

このような素晴らしい式ができたのも、卒業生及び在校生の式に臨む意識の高さと頑張りによるものと嬉しく思います。また、保護者、ご家族及び地域の皆様の生徒たちへの温かい励ましや支援の賜物と感謝しています。

頑張れ!!

卒業生!!